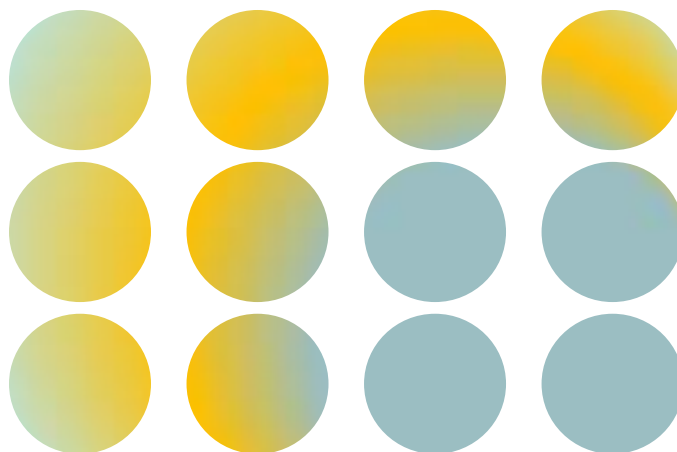


学校教育に対する保護者の意識調査

— Benesse教育研究開発センター・朝日新聞社共同調査 —

シンポジウム報告資料

2008. 9. 27 Sat.



Benesse[®] 教育研究開発センター
Benesse Educational Research & Development Center

◆ 調査実施の経緯

◆ Benesse 教育研究開発センター

- ・ **ベネッセコーポレーションの教育シンクタンク**
 - ・ 子ども／保護者／教員の意識・行動に関する調査研究
 - ・ 子どもに必要な能力・スキルやその育成・測定に関する研究
 - ・ ICTなどの機器を利用した新しい学習方法に関する研究
 - ・ 英語の習得や英語教育の実態に関する調査研究

◆ 調査実施の経緯

- ・ **2002年学習指導要領の改訂**
 - ・ 学力低下不安、学校不信の高まり
 - ・ 保護者は学校教育をどのように評価し、何を期待しているのか？

継続して変化をとらえられる調査がない

地域や保護者の属性による違いを分析できる調査がない

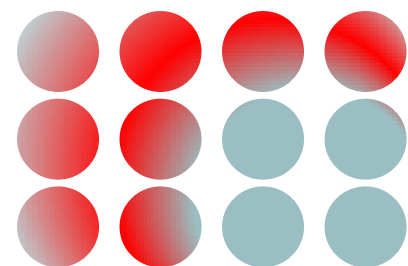
- ・ **2003年に朝日新聞社と共同調査を企画**

◆本日の報告内容

◆報告の流れ

1. 結果から見えること（まとめ）
2. 調査の概要
3. 調査結果
 - Part① 学校教育に対する意識
 - Part② 教育改革に対する意識
 - Part③ 教育費の使用状況
4. 結果から見えること（再掲）

1. 結果から見えること



◆結論

①学校に対する**満足度**が高まった

- ・とくに、今まで満足度が低かった属性で高まった
中学生の保護者、高学歴の保護者、都市部の保護者など

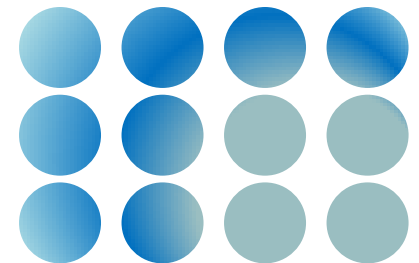
②**教育改革**を求める意識がダウンする傾向がみられる

- ・改革に対して冷静になっている
小学校英語、学校選択制、学校評価に対する「賛成」の減少
- ・その中で、全国学力テストの賛成が高まっている

③**学校外の教育費支出**が増えた

- ・4年前に比べると、属性ごとの差が拡大した
- ・学校に対する「満足」が増えた属性で教育費支出が増えている

2. 調査の概要



◆調査対象・サンプル数

◆全国の小学2年生、5年生、中学2年生をもつ保護者

- ・ 回答者の9割は母親
- ・ 都道府県庁所在地、その他の市部、郡部に分けてサンプリング
- ・ 地域に偏りがあるため全国の平均値とはいえない
- ・ 同じ学校に調査を協力いただくことで経年変化をとらえる設計

◆調査の枠組み

2004年調査

- 協力校：小26校、中20校
- 配布数：8,503名
- 回収数：6,288名
- 回収率：74.0%

このうち継続実施校のデータを抽出

小17校(2,495名)
中14校(1,515名)

2008年調査

- 協力校：小21校、中19校
- 配布数：6,901名
- 回収数：5,399名
- 回収率：78.2%

このうち継続実施校のデータを抽出

小17校(2,782名)
中14校(1,603名)

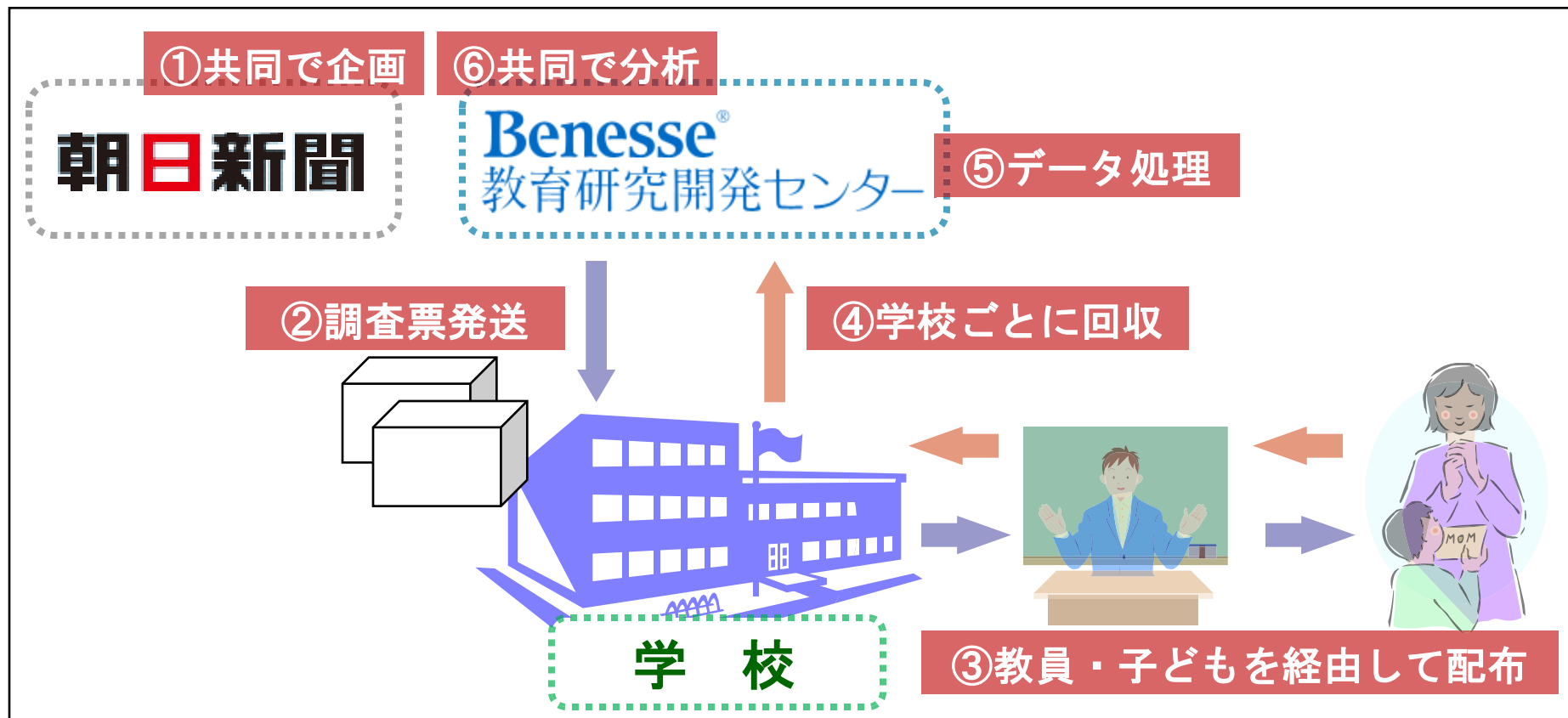
比較

◆調査方法

◆学校通しによる自記式質問紙調査

- ・ 教員・子どもを経由した配布・回収
- ・ 無記名式、糊づけ封筒に入れて回収

◆調査の流れ



◆調査内容

●2002年学習指導要領改訂の定着・影響

- ・学校週5日制、絶対評価、総合的な学習、習熟度別指導に対する意識 など

●学校教育に対する意見

- ・国と地方の役割、学校間の競争、教科書のレベル、教育格差の問題 など

●学校・学校外教育に対する期待と満足

- ・教科の学習指導、学習以外の活動、学校参加、習い事・教育費 など

+

NEW

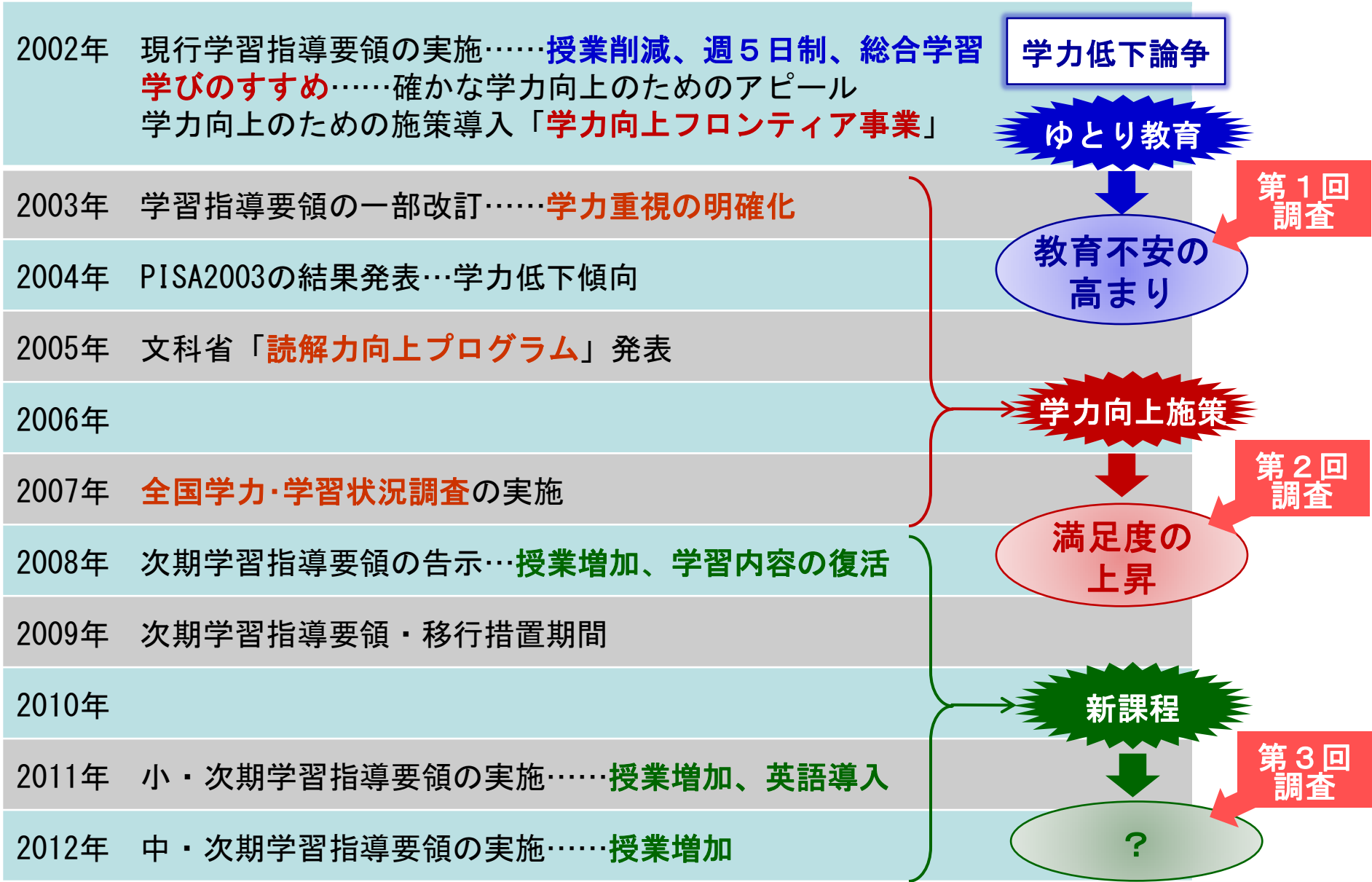
●次期の学習指導要領に対する意識・賛否

- ・授業時数の増加、総合学習の削減、知識と活用、教育予算の配分 など



4年間の経年での変化をとらえるとともに
次の指導要領改訂後の意識も継続的にとらえられる設計

◆教育動向の確認



3. 調査結果

Part①

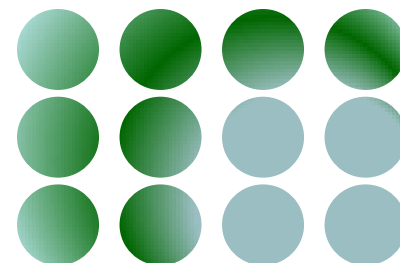
学校教育に対する意識

Part②

教育改革に対する意識

Part③

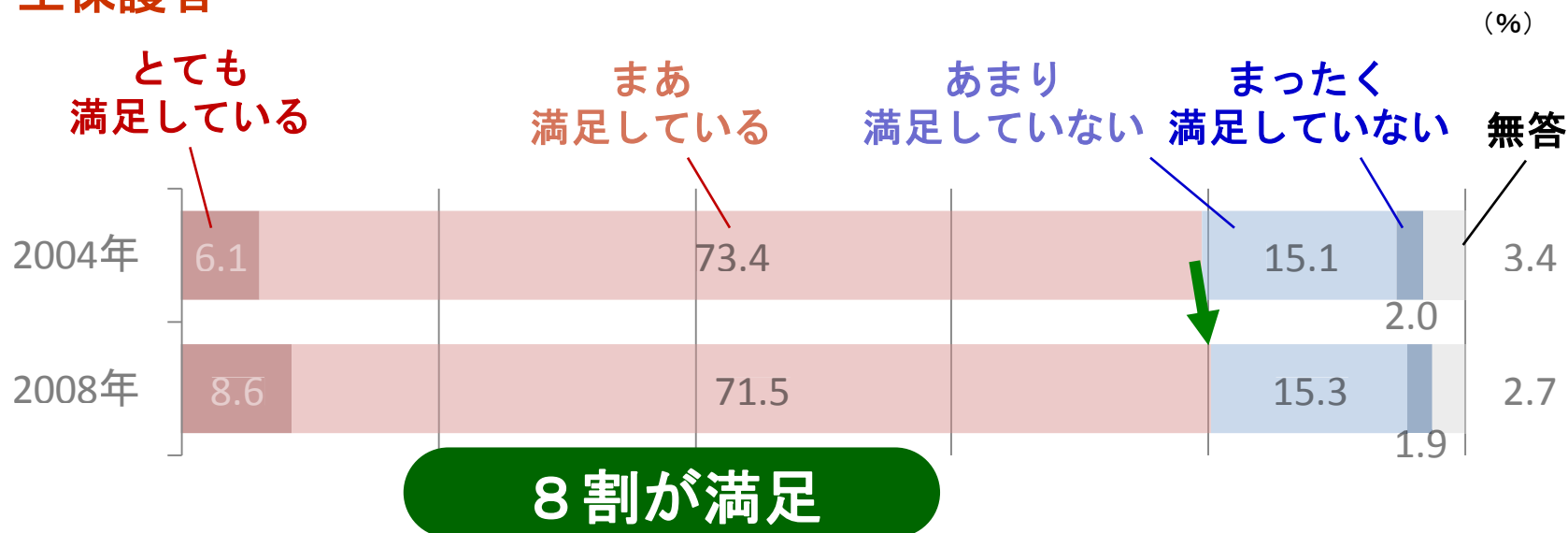
教育費の使用状況



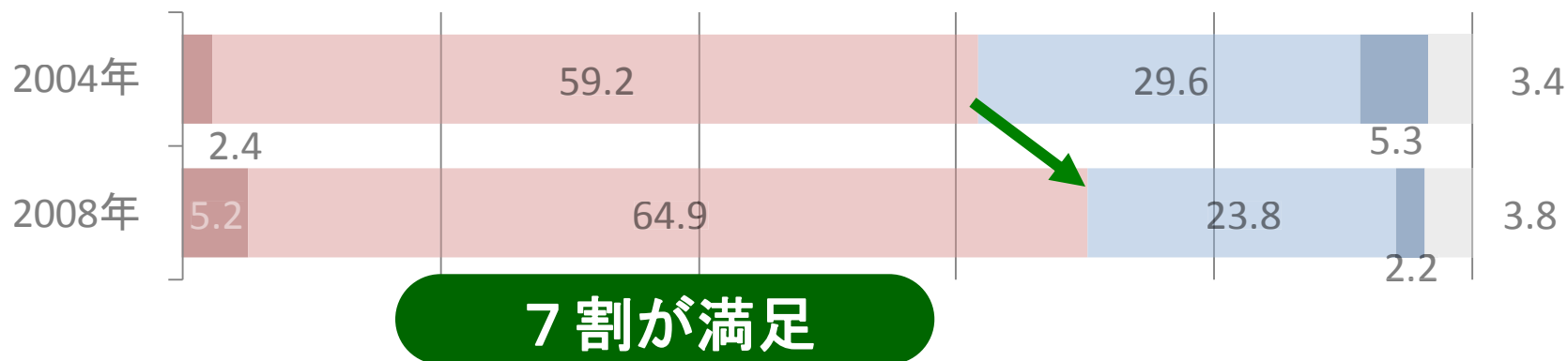
◆学校に対する満足度が上がっている

◆図1：学校に対する満足度（総合的に見て）

①小学生保護者



②中学生保護者



◆都市部や大卒層の満足度が上昇

◆表1：学校に対する満足度（総合的に見て）

①地域別

「とても満足している」と「まあ満足している」の合計（%）

	2004年	2008年
都道府県庁所在地	63.7	75.2
その他市部	74.7	78.2
郡部	80.2	74.1

②母親の就業別

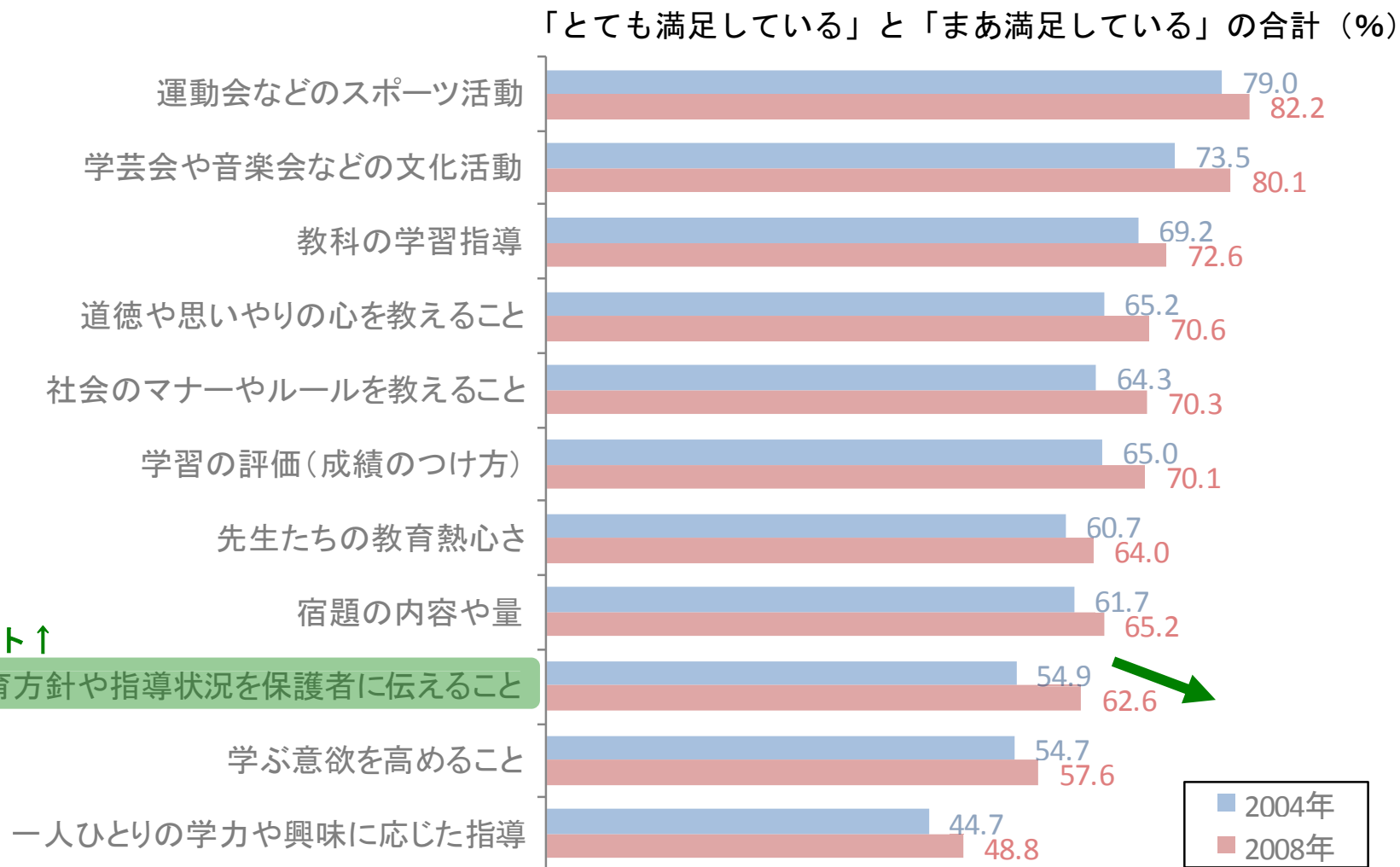
	2004年	2008年
専業主婦	71.5	77.0
パート・アルバイト	72.7	77.0
常勤	74.9	76.6

③学歴別

	2004年	2008年
父母ともに非大卒	73.7	76.0
父母ともに大卒	70.2	75.8

◆情報伝達に対する評価が大きく上昇

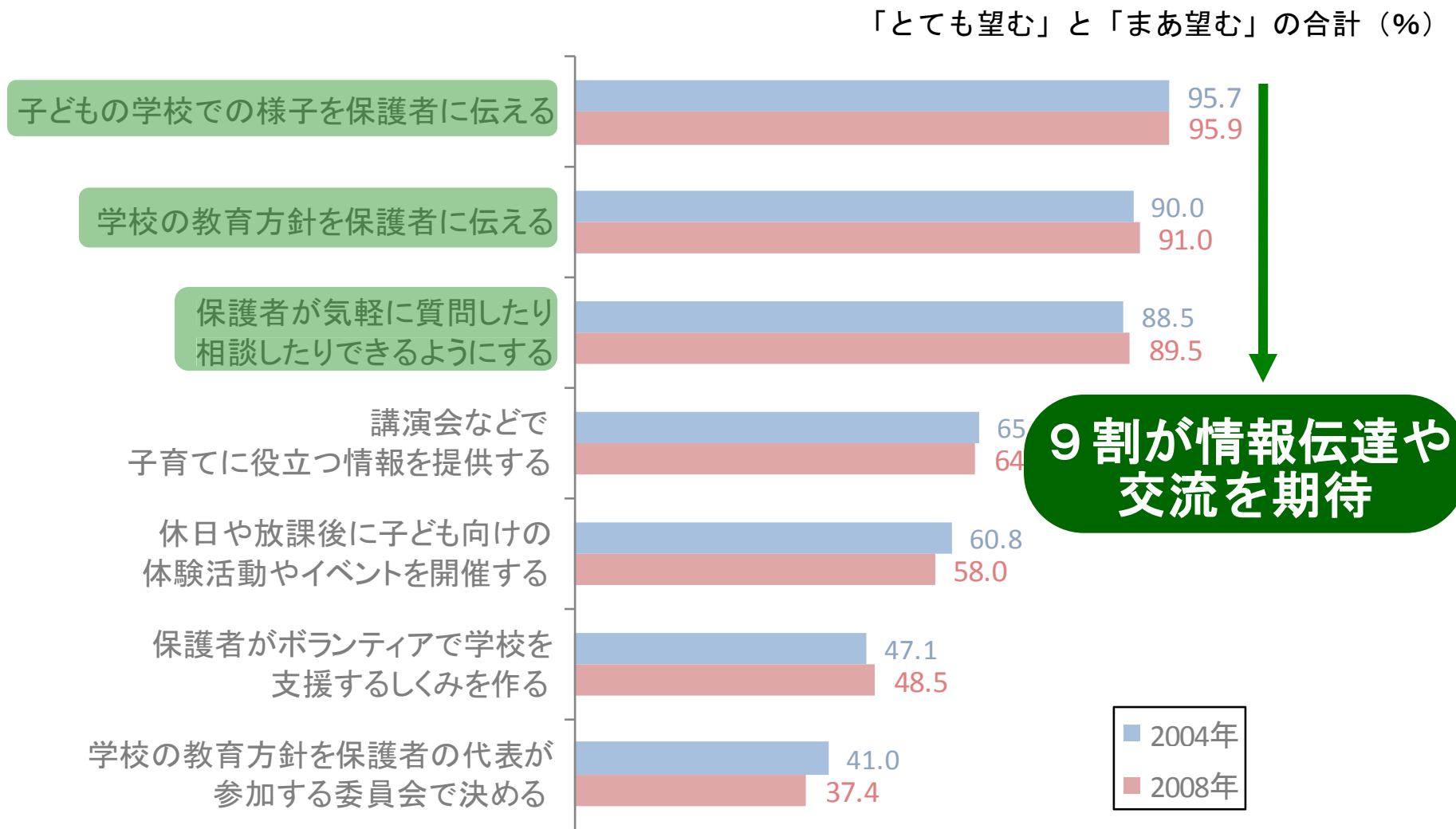
◆図2：取り組みに対する満足度



ほとんどの項目で満足度が上昇

◆保護者は情報伝達を強く望んでいる

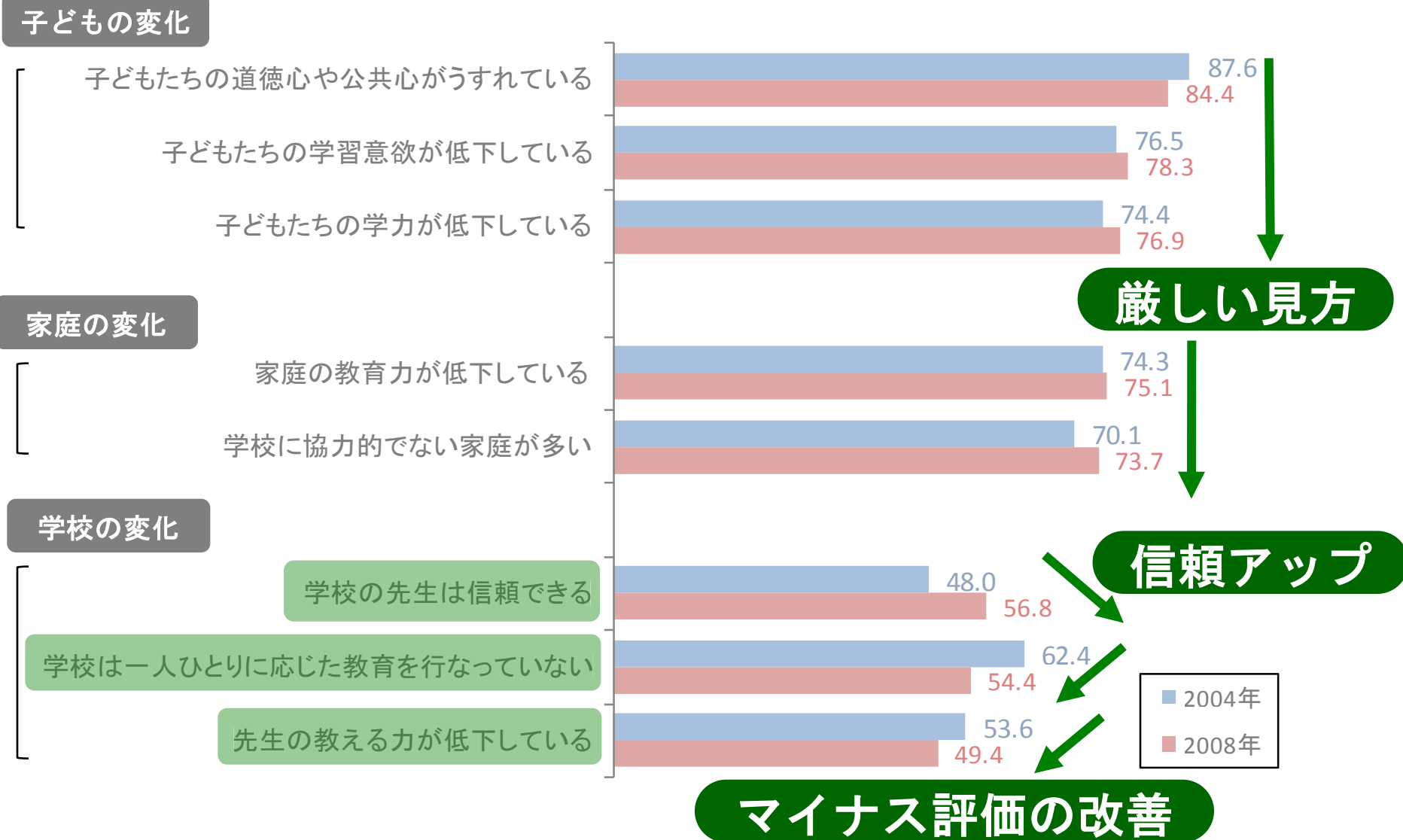
◆図3：学校に対する保護者のニーズ



◆学校・教員に対する温かいまなざし

◆図4：教育の変化に対する意識

「とても感じる」と「まあ感じる」の合計 (%)



◆満足度が高まったのはなぜか？

◆学校に対する満足度が高まっているのは、

- ①中学生の保護者
- ②都市部の保護者
- ③専業主婦
- ④大卒層

2004年調査で満足度が低かった属性の人たちが
2008年調査で満足度を高めた



結果的に、小中格差、地域格差、家庭の文化格差が縮小している！
学校に対する信頼が高まり、ネガティブな評価が減っている！

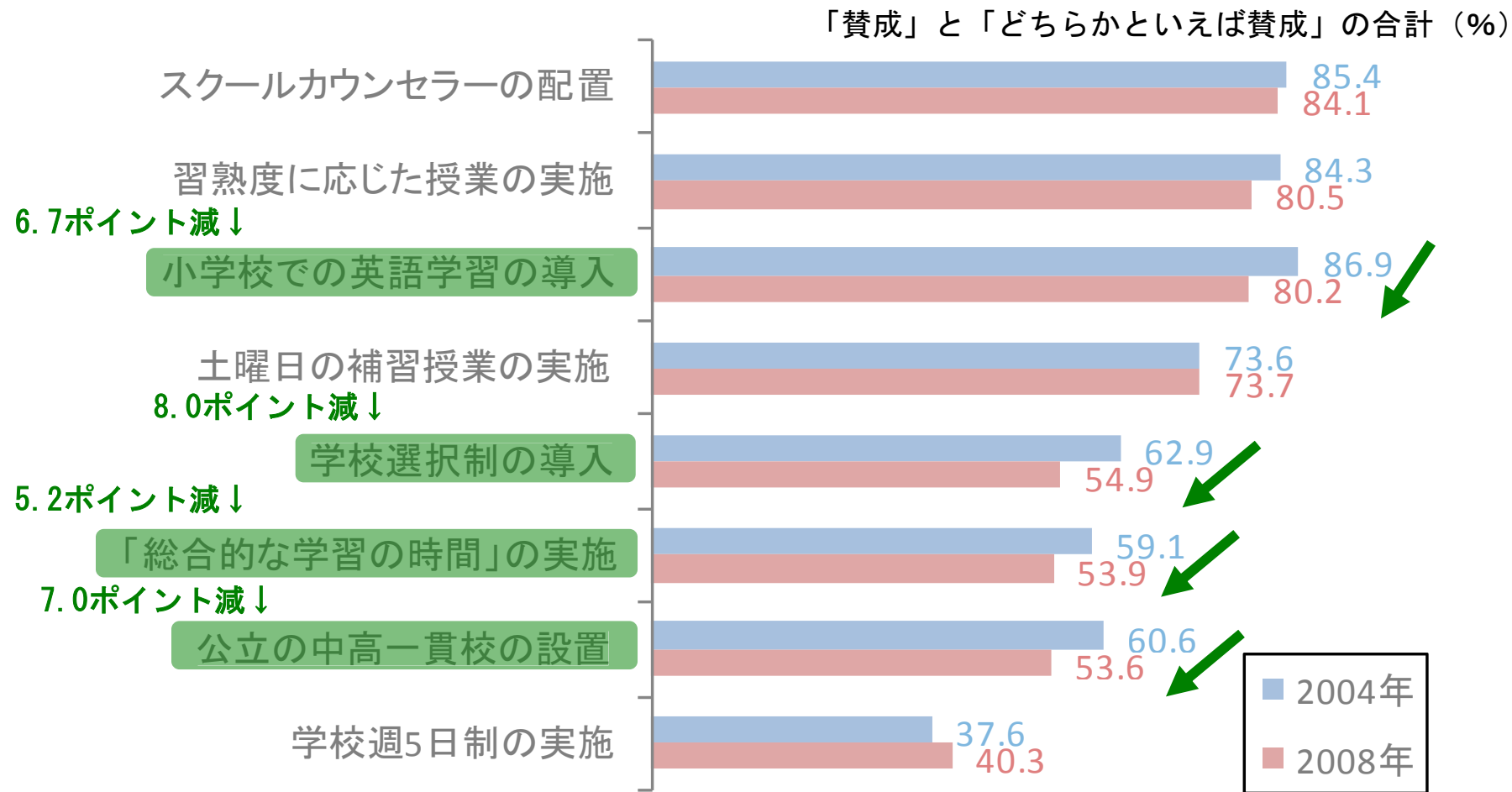
なぜだ!?

学校選択制
の影響？

- ①都市部の学校ほど保護者への情報提供を熱心に行った
- ②学校からの働きかけに敏感に反応する層と反応しない層がいる
→都市部の保護者、専業主婦、大卒層は学校からの働きかけに敏感に反応

◆小学校英語、学校選択制は賛成が減少

◆図5：教育改革に対する賛否①

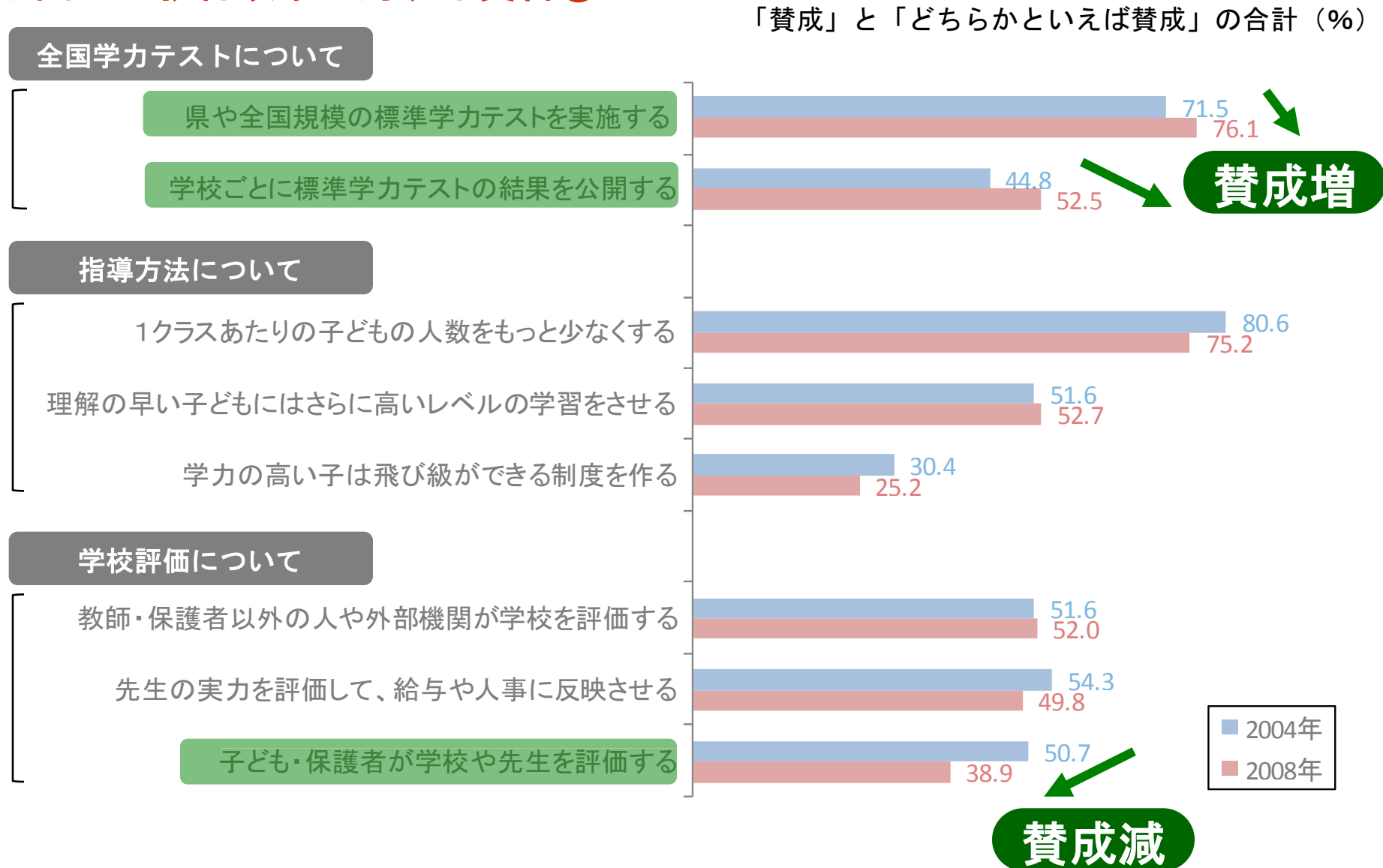


賛成多数の項目が多いが
賛成の比率は低下傾向

都市部や大卒層に
賛成低下の項目が多い

◆全国学力テストの賛成が増加

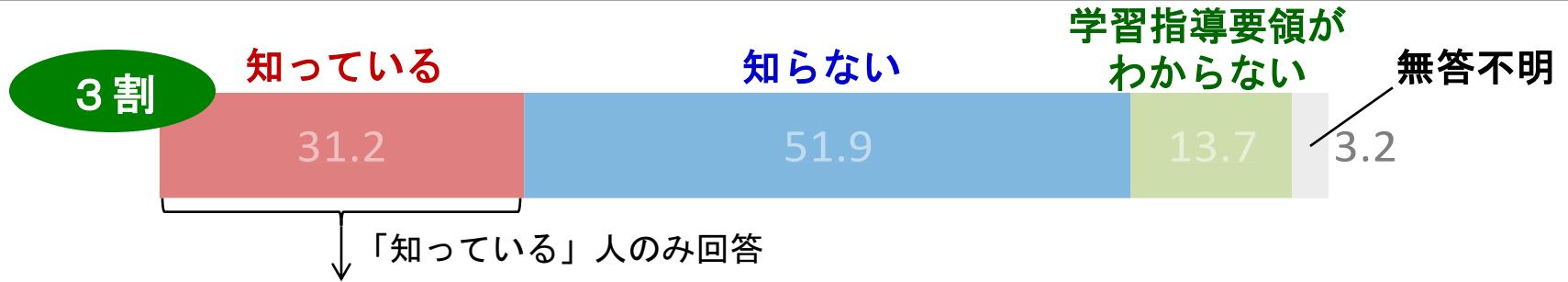
◆図6：教育改革に対する賛否②



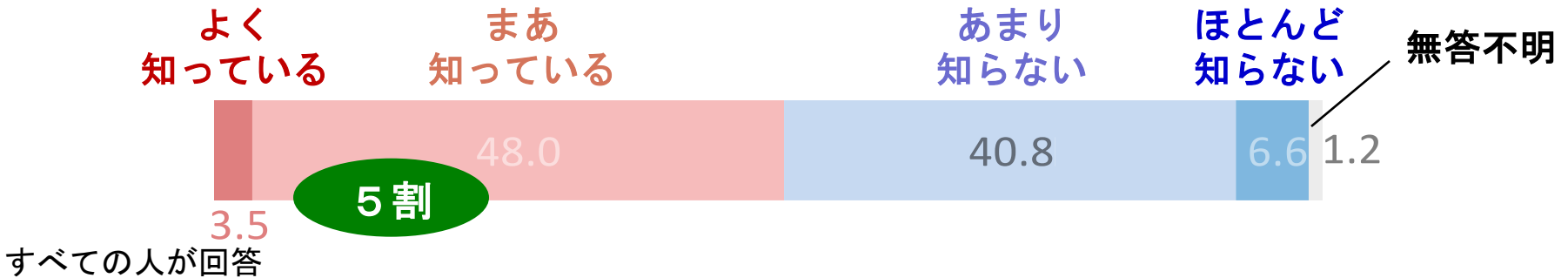
◆指導要領の改訂を知っているのは3割

◆図7：学習指導要領の改訂に対する認知

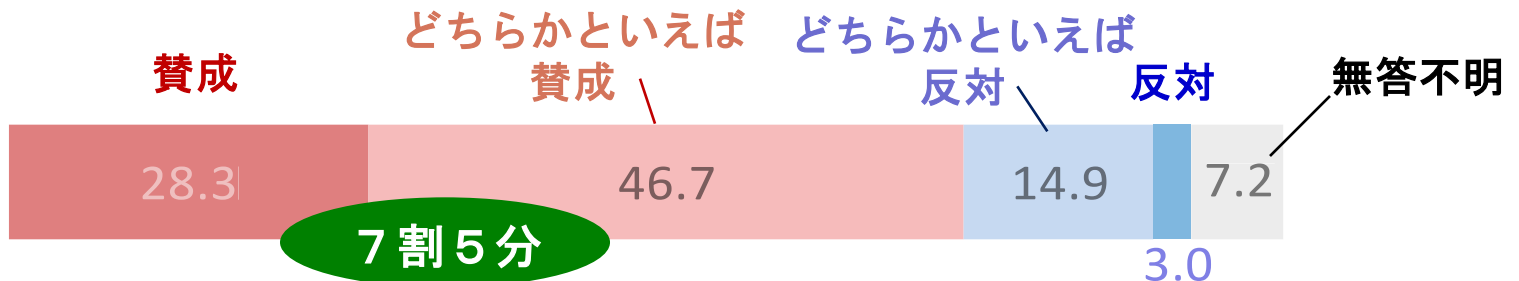
①2011年以降に学習指導要領が変わることを知っていますか。



②今回の変更の内容について、どれくらい知っていますか。



③次の学習指導要領では授業時間が増えますが、あなたは賛成ですか。



◆改革の賛否は内容により傾向が異なる

◆学校選択制、小学校英語

- 賛成が減少しているが、過半数は賛成している
- 選択制は都市部、小学校英語はゆとり層、大卒層などで賛成が減少
→選択制は導入エリアで、課題が見えてきた？
→小学校英語は、学校外で習わせている保護者には不満？

◆公立中高一貫校の設置

- 賛成が減少しているが、過半数は賛成している
- その他市部での賛成が減少した
→県庁所在地にあることが多く、それ以外の市からは通学できない？

◆学校評価

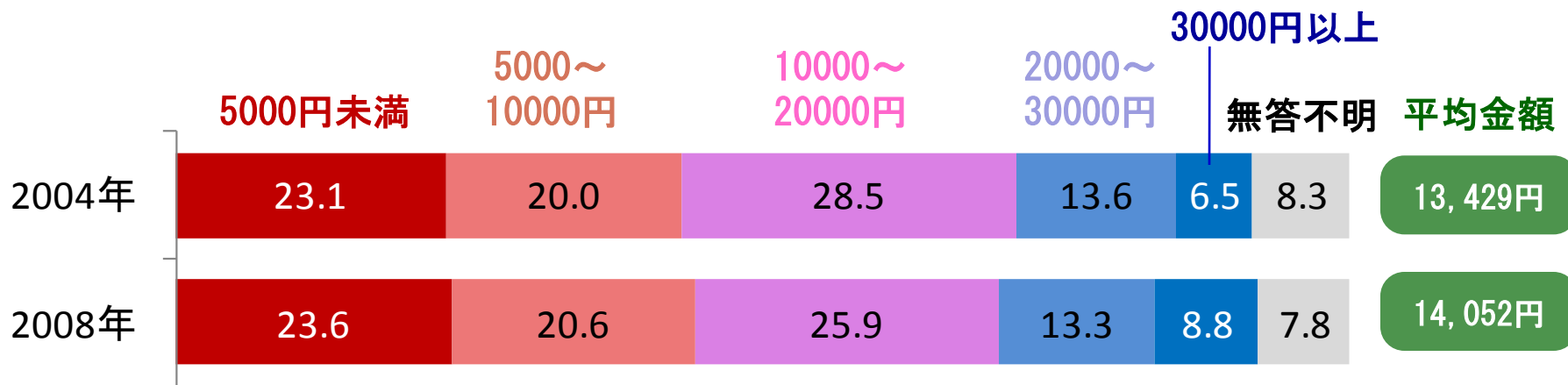
- 賛成が減少して過半数割れ
- 全体にどの属性も賛成が減少している

◆全国学力テスト

- 賛成が増加し、結果公開についても過半数が賛成に
- 小学校の保護者の賛成増加が目立つ。都市部ほど賛成する傾向。
→客観的評価が少ない小学生保護者にニーズあり？

◆教育費の支出が増えている

◆図8：教育費（1人・ひと月あたり）



◆表2：教育費（学年別）

	2004年	2008年	変化 (08年-04年)
小学2年生	10,002円	10,259円	+257円
小学5年生	12,795円	13,870円	+1,075円
中学2年生	16,762円	17,378円	+616円

小5の増加が大きい

◆東京や大卒層で教育費の支出が増えている

23

◆表3：教育費（東京－東京以外）

	2004年	2008年	変化（08年－04年）
東京都	15,957円	16,944円	+987円
東京都以外	12,985円	13,276円	+291円

東京で増加

◆表4：教育費（学歴別）

	2004年	2008年	変化（08年－04年）
父母ともに非大卒	10,871円	11,324円	+453円
父母ともに大卒	18,479円	19,869円	+1,390円

大卒層で増加

◆表5：教育費（生活のゆとり別）

	2004年	2008年	変化（08年－04年）
ゆとりがある	16,065円	17,228円	+1,163円
ゆとりがない	11,720円	12,251円	+531円

ゆとりあり層で増加

◆教育費の格差が拡大した

◆教育費の支出が多いのは…

都市部、大卒層、生活にゆとりがある層の保護者



こうした保護者はこの4年でさらに支出を伸ばした

もともとあった差が、さらに拡大した

◆小5生の教育費が顕著に伸びている

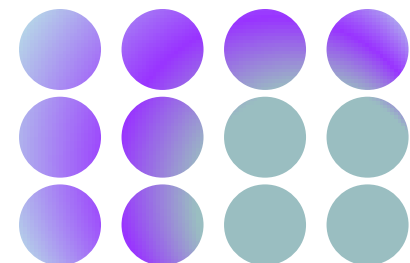
中学受験の影響ではないか？



首都圏の中学受験率は、この4年で5.4ポイント上昇

学校満足度を高めている層が中学受験をしている可能性

4. 結果から見えること



◆結論（再掲）

①学校に対する**満足度**が高まった

- ・とくに、今まで満足度が低かった属性で高まった
中学生の保護者、高学歴の保護者、都市部の保護者など

②**教育改革**を求める意識がダウンする傾向がみられる

- ・改革に対して冷静になっている
小学校英語、学校選択制、学校評価に対する「賛成」の減少
- ・その中で、全国学力テストの賛成が高まっている

③**学校外の教育費支出**が増えた

- ・4年前に比べると、属性ごとの差が拡大した
- ・学校に対する「満足」が増えた属性で教育費支出が増えている

Benesse[®] 教育研究開発センター

Benesse Educational Research & Development Center